

第2回 目黒区交通バリアフリー推進基本構想改定及び推進協議会 会議録

■開催日時・場所・出席者・次第・配布資料

日時	令和3年8月31日(火) 14時00分～15時00分
会場	目黒区総合庁舎本館5階 第3委員会室
出席者	委員 寺内会長、丹羽副会長、高橋委員、山田委員（代理：岸井）、依田委員、山口委員、小林委員（欠席）、山本委員、上野委員、大野委員（欠席）、木内委員、鈴木委員、五島委員（代理：木村）、篠田委員（代理：奥）、植竹委員（代理：武田）、菊池委員、新井委員（欠席）、浅川委員、雑賀委員、長崎委員、中澤委員 事務局 目黒区都市整備部都市計画課 都市計画課長、都市計画係長、都市計画係職員
委員21名 (出席名18名 欠席3名)	
次第	1 開会 2 議題（移動等円滑化促進地区、重点整備地区、生活関連施設、生活関連経路等の設定について（案）） 3 その他 4 閉会
配布資料	1 次第 2 座席表 3 目黒区交通バリアフリー推進基本構想改定及び推進協議会名簿 4 説明資料 移動等円滑化促進地区、重点整備地区、生活関連施設、生活関連経路等の設定について（案） 5 別紙1 事業進捗調査の結果 6 別紙2 まち歩き点検の開催概要及び開催結果 7 別紙3 移動等円滑化促進地区及び重点整備地区等の設定について 8 別紙4 生活関連施設・生活関連経路等の設定について 9 参考資料1 第1回協議会後の主な意見と対応 10 参考資料2 用語解説 11 意見票 12 パワーポイント資料

■会議要旨

1 開会	
会長	(開会あいさつ)
事務局	(配布資料の確認)
2 移動等円滑化促進地区、重点整備地区、生活関連施設、生活関連経路等の設定について (案)	
事務局	(別紙1、別紙2の資料説明)
会長	「別紙1 事業進捗調査の結果」、「別紙2 まち歩き点検の開催概要及び開催結果」について、ご意見をお願いしたい。
委員	まち歩き点検の参加者について伺いたい。当事者となる障害者の方がまち歩き点検に参加されていたのか。
事務局	まち歩き点検の日程と障害者団体の方とのスケジュールが合わなかったため、当日の参加はなかった。各自点検には、障害者団体の方にご参加いただいている。
委員	本日、委員として目黒区障害者団体懇話会の方に参加いただいているが、各自点検の様子を教えていただきたい。
委員	当団体には、車いす利用者、聴覚障害者の方等、多様な方が所属している。分担して全地区の各自点検を実施し、結果を取りまとめて区に提出した。
委員	多様な障害のある方からのご意見が集約されているということでしょうか。
委員	当団体に所属している方は、当事者ではなく家族の参加が多い。また、視覚障害者は所属していないが、これまでの関わりの中で希望等は理解しているため、視覚障害の視点からも意見を提出している。
会長	他にご意見はあるか。なければ、次の議題に進むこととする。
事務局	(事務局より、別紙3、別紙4の資料説明)
委員	別紙3について、移動等円滑化促進地区に田園都市線の駒沢大学駅が入っていないのはなぜか。区外の駅ではあるものの、東が丘地域周辺の住民の生活圏として利用されていると思う。
事務局	移動等円滑化促進地区の範囲は、目黒区都市計画マスタープランの広域生活拠点、地区生活拠点に位置付けている区内及び区周辺の13駅を基に指定しており、駒沢大学駅は含んでいない。
委員	都市計画マスタープランと整合をとる必要はあるのか。 例えば、不動前駅は近隣の駅で補うことができるため、範囲から外すと考えることができると思うが、駒沢大学駅は、都立大学駅や自由が丘駅とも離れている。生活圏として一定数の方が利用されていると思う。
事務局	ご意見を参考に、事務局で改めて検討させていただく。
委員	駒場東大前駅から東京大学駒場キャンパスに通っている学生もいる。一度利用したことがあるが、車椅子で向かうには大変な道だったと記憶している。 別紙3の4ページをみると、駒場東大前駅は、他の地区と比べても施設数が多い。重点整備地区に位置付けなかった理由があれば教えていただきたい。
事務局	ご指摘のとおり、駒場東大前駅は駅のホームドアが未設置であり、駅のバリアフリー

	化は他駅に比べて遅れている状況である。東京大学駒場キャンパスがあり、駅周辺の道路幅員も狭いため、重点整備地区に位置付けることを検討していたが、駅前の国家公務員駒場住宅跡地の活用について、今後プランが出てくるため、今回は見送ることとした。
委員	東大関係者の中にも車椅子利用者がおり、学校施設のバリアフリー化も義務付けられているため、重点整備地区に位置付けるのがよいと思う。 ただ、現構想と比べて、重点整備地区が2駅追加されているため、区全体の検討状況の中でどのように扱うか、継続して検討していただきたい。
委員	別紙3に、重点整備地区を整理しているが、位置付けの有無に関わらずバリアフリー化は進めていく。その中で、区として責任を持って重点的に進める地域として重点整備地区を位置づけている。 ハード整備は予算との兼ね合いを考える必要がある。例えば、祐天寺駅は令和3年4月に祐天寺駅周辺地区整備計画を策定し、国の補助事業である「まちなかウォークアブル推進事業」を活用する予定である。まちの歩きやすさという視点からバリアフリーを進めていく必要があるため、今回重点整備地区に指定している。また、学芸大学駅は、「あんしん歩行エリア形成事業」を活用し、取組を進めている。自由が丘駅は、現在再開発事業などの街づくり活動が活発であり、区としても長年の課題であった道路幅員の狭さを解決するため、様々な部署と連携して整備を進めていくことを考えている。 駒場東大前駅については、駅前にある1万㎡の国有地活用のため、国と連携して取組を進めており、東京大学、京王電鉄とも情報を共有している。 ただ、この土地が国有地であり、また、民間活力を導入して進める方針であるため、重点整備地区への位置付けについては、今後の状況を見て改めて検討をしたいと考えている。
会長	別紙2の7ページに、駒場東大前駅の地図が掲載されている。まち歩き点検時の意見に、開発の際にはバリアフリーに配慮して整備してほしいとある。 今後、再開発が進んでいく中で、バリアフリー化に加えて整備して欲しい機能があれば、区に意見を提示していただくことで、検討材料になるのではないかと。
委員	駒場東大前駅の国有地については、5年間かけて地域と話し合いを進め、区の考え方として取りまとめ、昨年度国に活用方針を提出し、国では、区の考えを踏まえ、利用方針を策定した。 今後、整備に着手していく中で、バリアフリーについても着実に進めていきたいと考えている。
委員	先ほど、住民も交えて5年間検討を進めてきたと説明があったが、その中に障害者も参加していたのか。そうした場に障害者が参加することは難しいため、最低限、車椅子への配慮、視覚障害、聴覚障害の方も参加できるようにしていただきたい。 例えば、現在空港などの大規模施設の開発では、発達障害のある方や認知症の方のために、カームダウン・クールダウンの部屋を設けるなどの配慮を進めている。 また、新宿区では、大規模の開発に対して、事前協議として障害当事者やコンサルタントによるバリアフリーの確認作業を行っている。一般的な健常者の視点だけでは見落としがあるため、そうした工程も検討していただきたい。

会長	今週末に2日間、オープンハウスを実施するとのことだが、区役所に来庁することができない方も一定数いると思われる。 素案を作成する段階のため、多くの方からご意見をいただきたいと考えている。このため、障害者団体や地域の保育従事者にヒアリングすることなどが考えられるが、オープンハウス以外に意見を伝える方法はあるか。
事務局	ホームページに資料を掲載して意見を募る予定である。また、今回参加していただいている各団体から意見交換の要望があれば、オンライン等で対応していくことが可能である。
会長	コロナ禍の状況で難しいことも多いと思うが、素案を作成するまでに少しでも多くの意見を集めていただきたい。 別紙4に各重点整備地区の図面が掲載されている。9月中旬の意見提出締め切りまでに、委員の皆様には改めて各自で資料を読み込んでいただき、ご意見をいただきたい。
3 その他	
事務局	(今後のスケジュールについて説明)
4 閉会	
会長	(閉会あいさつ)

以上